
ウルトラマンガイア ~ 魔法少女達との交差 ~ 赤の章

断空我

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウルトラマンガイア〜魔法少女達との交差〜赤の章

【Nコード】

N4108V

【作者名】

断空我

【あらすじ】

小さい頃、両親を失って深い絶望の中にいた少年の前に白い生き物が現れる、その生き物から逃げた彼は『光』と運命的な出会いをする。

（前書き）

いわゆるキャラクター設定です。

高山陸（15歳）

見滝原中学校三年生、まどか達とは一つ年上の学年だが、授業には出席する事はなくずっと彼のために作られた理科準備室に籠っている。

様々な機械を作っては特許を申請している。天才だが、周りと上手くなじめなていなかった。

しかし、ある日、まどかと偶然知り合ってから友達のように仲良くするようになる。

魔法少女という存在にどこか嫌悪している。

少年は必死に目の前の事から逃げようと走っていた。

走って逃げられるという保証はない、けれど、立ち止まってしまえば自分は終わる。

そんな予感に体が突き動かされて走っていた。

けれど、走ることにしんどくなり、一旦、速度を落とす。

『ねえ、僕と契約してよ』

その瞬間、少年は速度を落とそうとしたのをやめてさらに走り出した。

『ねえ、逃げないで僕の話聞いてよ』

『どうして逃げるのさ、君にとって損のない話じゃないんだよ？』

少年は白い塊から逃げるべく速度を上げようとしたが目の前に輝く二つの目のようなものに体がぶつかる。

『あーあ、折角の人材だったけど、こうなっては仕方ないね。さようなら』

白い塊は非情にも助けることなくそのまま去ってしまう。

荒廃した大地でムカデのような不気味な怪物が赤い光を放つ巨人と戦っている。

巨人は地響きをたててムカデに立ち向かいパンチやキックをムカデの怪物に放つ。

対するムカデも一つ目からオレンジ色の光線を放った。

巨人は後ろへ回転するようにして攻撃を避けていく。

そして、巨人は両腕を顔の前で合わせるような動作をとる。すると額の部分から赤い鞭のような光が伸びて赤い光線となった鞭が真っ直ぐにムカデの体に直撃する。

ムカデは悲鳴を上げて爆散した。

巨人は構えを解いてゆっくりとある方向を見る。

巨人とムカデの怪物の戦いを見ていた一人の少年を。

少年は気がついたらこの空間にいた。

そして、怪物との戦いを見ていた少年はぼつりと巨人を見て呟く。

「ウルトラマン」・・・？」

どうしてその名前が出たのかはわからない。

けれど、こういうわけかその巨人との出会いが初めてとは思えなかった。

まるで、昔から知っているような・・・。

巨人はゆっくりと少年に近づいて行って、まるで抱きしめるかのように両手で少年を包み込む。

包み込まれたとき、太陽が自分を照らしているような温もりを感じて少年は目を閉じる。

目を覚ました時、少年は病室に寝ていた。

陸は気がついたら駆け出していた。後ろでまどかとさやかが自分を呼び戻そうとする声が聞こえる。

どうして走り出したのかわからない、けれど、止めなくてはいいい。

そんな気持ちに突き動かされていた。

「巴さん！」

「！？あなた」

魔女を倒し終えた巴マミがこちらを向いた瞬間、煙の中から黒い塊が現れてマミに襲い掛かるうとする。

「やめろおおおおおおおおお！」

牙がマミを捕食しようとする中、陸はマミを突き飛ばした。

そして自分もその場を離れようとする。

けれど、お・そ・かった。

「っ！」

目の前に広がる沢山の牙、ソレを見た直後。

陸は魔女・シャルロッテの口の中に消えた。

真つ暗闇の中、陸は大きな渦の中にいた。

その渦は一人の少女の執着の話。

少女は生まれてからというものの愛というものをしらない。

両親は生まれてすぐに他界、少女を引き取った親戚達は彼女を愛することなくなるとい回しにするという事ばかり、そのせいで学校も長居することなく友達もできる事がなかった。

そんなある日、白い生き物と出会い、彼女は契約する事となる。

契約して彼女は一人ではなくなり、大勢の仲間が出来た。

今まで一人だった自分に来た“仲間”少女は嬉しくて仲間を大切に
にする。

だが、それも長くは続かなかった。

何がきっかけでそうなったかはわからない。

気がついたら仲間がどんどん自分から離れていく。

少女は必死に仲間を取り戻そうと魔女を倒す事に執着し、その力を仲間を引き止めることに注いだ。

けれど、少女の奮闘虚しく、仲間は去っていった。

「……同じだ……」

ぼつりと陸は呟き、彼の目から涙が零れ落ちた。

この少女と自分は共通点が多すぎる。

けれど、違う部分もあった、それは家族の温もりを知らないという事。

そして、この少女は深い絶望に落とされて。

「この子には温もりをくれる人がいなかったんだ……」

陸の脳裏には家族が死んで深い絶望にいた自分を抱きしめてくれた叔父叔母の姿が浮かび上がる。

この子を救ってあげたいと陸は思った。

自分を抱きしめて救ってくれた人達のように自分もこの人を救ってあげたい。

「でも……僕には何も出来ない……ただ、頭がいいだけで……何も力が……」

無力を感じていたとき、陸の目の前に赤い光が現れる。

光は形を成して、赤い巨人へと姿を変えた。

「……ウルトラマン……!?!?」

陸は思い出す、ムカデのような怪物と戦っていた赤い光に包まれた巨人、そして今まで、魔法少女とであった時からずっと感じていた感覚の正体がなんなのかも。

「ウルトラマン！僕はキミになりたい！キミのように温かく誰かを包み込めるようにしたい！」

もしできるなら・・・、と陸は目の前の巨人に訴える。

まるで神様に願い事をするかのように陸は願う。『力』が欲しいと。

巨人は陸に返事をするかのように頷いた。

直後、眩い光が陸を包み込んだ。

シャルロッテが陸を飲み込んだ事にまどか達が呆然としていると頭上から眩い光が降り注いで赤い巨人が大地に降り立つ。
降り立つたと同時に大地が大きく揺れた。

「ジュワッ！」

巨人は叫んで目の前のシャルロッテに突っ込んでいく。

まどか達は呆然と目の前に現れた巨人と魔女の戦いを見ることしか出来ない。

シャルロッテは口を大きく広げて巨人を飲み込もうとする。

「ウオワッ！」

巨人は飲み込もうとする口を両手で押さえる、しかし、シャルロッ

テのほうのパワーがあるのか徐々に後ろへ後ろへと下がっていく。

「（これ以上・・・下がるとまどか達が危ない・・・ダメだ！そんなの！それに、僕はウルトラマンなんだ！！）」

巨人は唸るような声をあげて両腕に力を入れてシャルロッテを振り回して投げ飛ばす。

シャルロッテは壁に激突して動きが鈍くなる。

両腕を顔の前に交差させて空高く伸ばすように突き上げた、すると巨人の額から赤い光の鞭のようなものが現れる、巨人はそのまま体制を低くして光線を発射する。

『フォトンエッジ』はそのままシャルロッテの体を打ち抜く。

シャルロッテの体が赤い光に包まれたと思うとそのまま粒子となって消えた。

巨人も両腕を交差させると光となって消える。

「な・・・なんだったの・・・あれ？」

しばらく誰も何もいえない中、ようやくさやかがぼつりと呟く。

「ウルトラマンだよ、さやか」

「陸君！」

離れた所から陸がゆっくりとやってくるのをみてまどかとさやかは駆け寄ろうとするが立ち止まる。その理由は。

「陸う！その女の子なに！？」

陸の背中にはどういいうわけか女の子が気持ちよさそうに眠っている。

しかも全裸で。

ソレを見てまどかはあうあう・・・といって、さやかは眉間に皺を寄せていた。

「いや・・・あの・・・」

「あんたはあ！まどかというものがあらあー！」

「さ、さやかやめで、く、くびがしまちゅって・・・」

「さ、さやかちゃん！」

陸に突き飛ばされたときに運悪く頭を打っていた巴マミが復活して止めに入るまで首絞めは続いた。

「・・・二人目・・・か」

それを遠くで眺めている一人の男がいる。

彼の腕には青く輝くブレスレッドのようなものがついていた。

（後書き）

ガイアに関してはいろいろと独自解釈をいれています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4108v/>

ウルトラマンガイア～魔法少女達との交差～赤の章

2011年10月29日03時09分発行